

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称) 栃本天海堂新倉庫新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質				2.9	
Q1 室内環境			0.30		3.0
1 音環境		2.2	0.15		2.2
1.1 室内騒音レベル	—	2.0	0.40		
1.2 遮音		3.0	0.40		
1 開口部遮音性能	複層ガラスを使用	3.0	1.00		
2 界壁遮音性能	—	—	—		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	—	—		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—	—	—		
1.3 吸音	—	1.0	0.20		
2 温熱環境		3.0	0.35		3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50		
1 室温	容量に見合った空調機を設置	3.0	0.38		
2 外皮性能	複層ガラスを採用	3.0	0.25		
3 ゾーン別制御性	—	3.0	0.38		
2.2 湿度制御	—	3.0	0.20		
2.3 空調方式	事務所は断熱材、倉庫は断熱パネルを採用し、空調に配慮	3.0	0.30		
3 光・視環境		3.0	0.25		3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30		
1 昼光率	—	3.0	0.60		
2 方位別開口	—	—	—		
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40		
3.2 グレア対策		3.0	0.30		
1 昼光制御	—	3.0	1.00		
3.3 照度	—	3.0	0.15		
3.4 照明制御	—	3.0	0.25		
4 空気質環境		3.8	0.25		3.8
4.1 発生源対策		5.0	0.50		
1 化学汚染物質	規制対象外の材料のみ採用	5.0	1.00		
4.2 換気		2.3	0.30		
1 換気量	—	3.0	0.33		
2 自然換気性能	—	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮	—	1.0	0.33		
4.3 運用管理		3.0	0.20		
1 CO ₂ の監視	—	3.0	0.50		
2 喫煙の制御	—	3.0	0.50		
Q2 サービス性能			0.30		3.1
1 機能性		3.0	0.40		3.0
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40		
1 広さ・収納性	—	1.0	0.33		
2 高度情報通信設備対応	事務所にOAフロアを採用	3.0	0.33		
3 バリアフリー計画	極力段差を設けないようにした	3.0	0.33		
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30		
1 広さ感・景観	事務室に窓を多く配置した	3.0	0.33		
2 リフレッシュスペース	—	3.0	0.33		
3 内装計画	可能な限り、木材を採用した	3.0	0.33		
1.3 維持管理		4.0	0.30		
1 維持管理に配慮した設計	外壁に防汚性の高い材料を採用	4.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保	—	4.0	0.50		
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法を満たしている	3.0	0.80		
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30		
1 躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外部の鉄部は溶融亜鉛メッキとした	3.0	0.20		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニールクロス(事務所)金属板(倉庫)	4.0	0.10		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐久性の高い配管を採用した	5.0	0.20		
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20		
2.4 信頼性		3.0	0.20		
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20		
2 給排水・衛生設備	—	3.0	0.20		
3 電気設備	—	3.0	0.20		
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20		
5 通信・情報設備	—	3.0	0.20		

3	対応性・更新性		3.4	0.30		-	3.4
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30		-	
	1 階高のゆとり	階高さを高くした	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	ブレースを減らす設計とした	5.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		2.6	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	天井裏を大きくした	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	-	1.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	OAフロアとした	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	OAフロアとした	3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.40		-	2.7
1	生物環境の保全と創出	可能な限り緑化をした	2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30		-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						3.3
LR1	エネルギー		-	0.40		-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱パネルを採用した	5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	太陽光発電を設置した	3.6	0.50		-	3.6
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価						
	4.1 モニタリング	-					
	4.2 運用管理体制	-					
LR2	資源・マテリアル		-	0.30		-	3.1
1	水資源保護		3.0	0.20		-	3.0
	1.1 節水	-	3.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.3	0.60		-	3.3
	2.1 材料使用量の削減	強度の高い鉄骨を採用した	4.0	0.10		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュランを採用	3.0	0.20		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	4.0	0.20		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20		-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避	-	3.0	0.70		-	
	1 消火剤	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50		-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境		-	0.30		-	3.1
1	地球温暖化への配慮		3.5	0.33		-	3.5
2	地域環境への配慮		3.0	0.33		-	3.0
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	余裕のある駐車場を設置した	4.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33		-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	-	3.0	0.33		-	
	2 振動	-	3.0	0.33		-	
	3 悪臭	-	3.0	0.33		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	-					
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0	7.0	○	○	-	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0	7.0	-	-	○	-	○	○	-	-	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0	2.0	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	2.0	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0	5.0	-	-	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	3.0	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	2.0	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	6.0	-	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	3.0	3.0	-	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0	9.0	-	-	3.0	3.0	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	3.0	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	3.0	-	1.0	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	2.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	2.0	2.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m ² K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η_{AC}
屋光率	0.0%		η_{AH}
自然換気有効開口面積率	0.0%		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	5.9m ² /人	病床	0m ² /床	シングル	0m ² ツイン	0m ²
コンセント容量	30.0 VA/m ²					

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

天井高	0 m
-----	-----

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%
------------	------	---------	------

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	0 年
--------	-----

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	20 年
--------	------

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	15 年
--------	------

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	15 年
--------	------

3.1.1 階高のゆとり

階高	3.5 m
----	-------

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	7.0%
-------	------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	2900 N/m ²
-----	-----------------------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	18%	建物緑化指数	0%
--------	-----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	86%	水平投影面積率	2%	地表面対策面積率	16%	舗装面積率	17%
-----	-----	---------	----	----------	-----	-------	-----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.46	断熱等性能等級	等級2 相当
----------------------	------	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅	0.74	住宅	-	太陽光	3.9kW	太陽熱等	0kW	蓄電池	0kW
----------------------	-----	------	----	---	-----	-------	------	-----	-----	-----

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
--------	---	---------	---	-------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	39%	隣棟間隔指標Rw	8.14
-------	-----	----------	------

地表面対策面積率	16.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%
----------	-------	----------	------	----------	------

見付面積S _b	30m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	30 m	基準高さH _b	30 m
--------------------	------------------	------------------------------	------	--------------------	------

緑地	6,842m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	m ²	再帰性反射対策面	m ²
----	---------------------	----	----------------	--------	----------------	--------	----------------	----------	----------------